オンサイトレスキュー

作業者が負傷や意識を失う等の理由で身動きが取れない場合、当然セルフレスキューを行うことはできません。この場合、作業チームはレスキュー隊の到着を待つ間にも迅速な対処をする必要があります。そのためには、作業者が適切なトレーニングを受け、定期的に訓練されていなければなりません。
レスキューを行う作業者は、事前に立てた救助計画にそって行動し、個人装備もしくは用意されたレスキュー用キットを使用します。

Zenith Prévention, Crolles (France) © Patrick Magnier

A アイディS：
下降速度のコントロールがしやすく、セルフブレーキ機能とパニック防止機能が付いた下降器/確保器

B マイクロトラクション：
超軽量かつコンパクトな高効率セルフジャミングプーリー

C ジェミニ：
引き上げシステムでの使用に適したダブルプルージックプーリー（アルミニウム製のサイドプレートとシールドボールベアリング付滑車）

D アクシス：
末端に縫製処理を施した、直径 11 mm のロープ

E ポルタージュ：
耐久性に優れた中型バッグ

製品ページ（40 ～ 149）参照

A

NEW

B

C

D

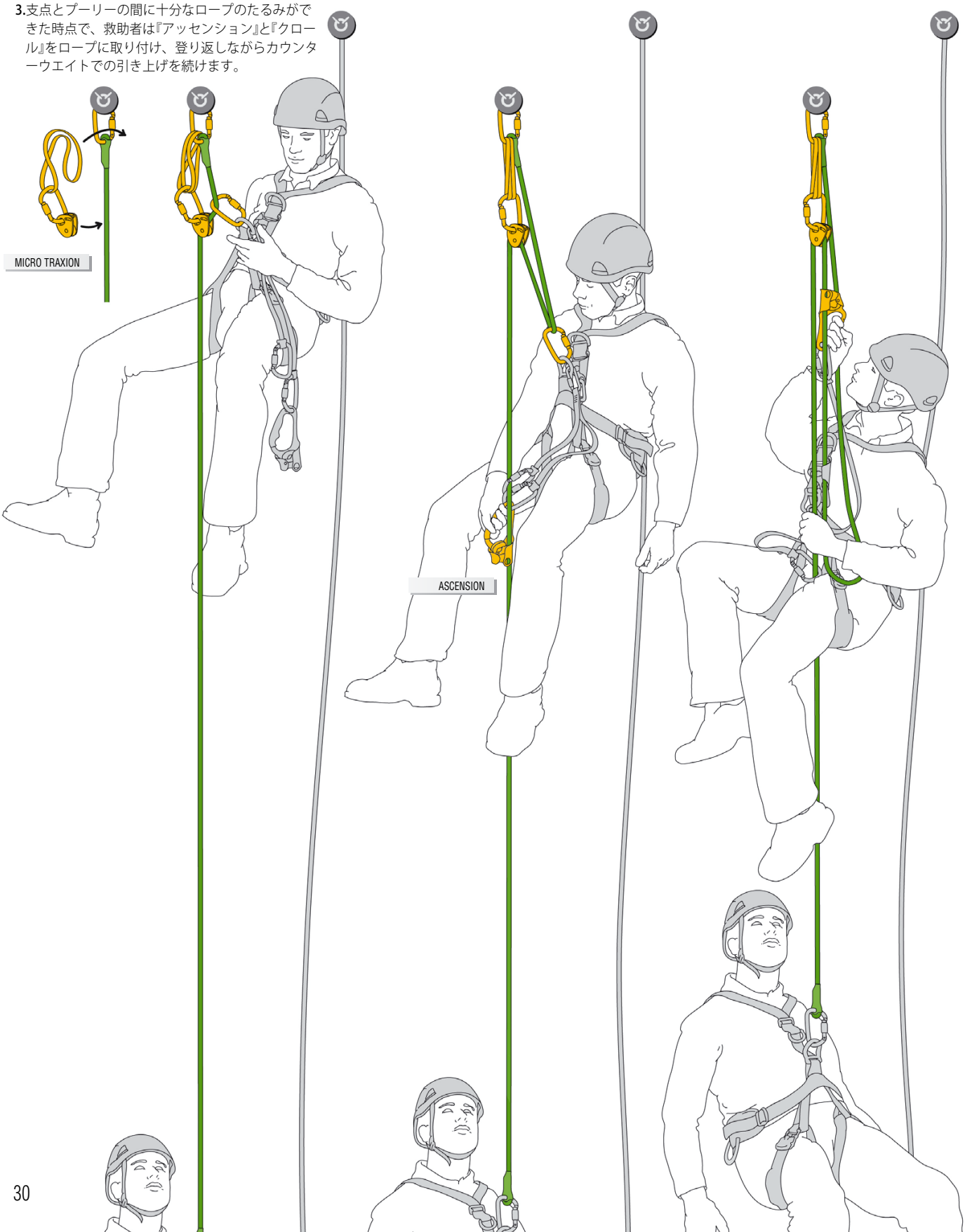
NEW

E

カウンターウエイトシステムによる上方への救出

要救助者を降下させることが不可能な時は、このシステムで引き上げます。
ロープが下部で固定されている場合は、このシステムは使用できません。

1.救助者はロープにセルフジャミングプーリーをセットし、支点とプーリーの間に加重します。
2.引き上げる最初の段階では、ロープクランプ等を使用して要救助者側のロープを引きながら、カウンターウエイトを行います。
3.支点とプーリーの間に十分なロープのたるみができた時点で、救助者は『アッセンション』と『クロール』をロープに取り付け、登り返しながらカウンターウエイトでの引き上げを続けます。

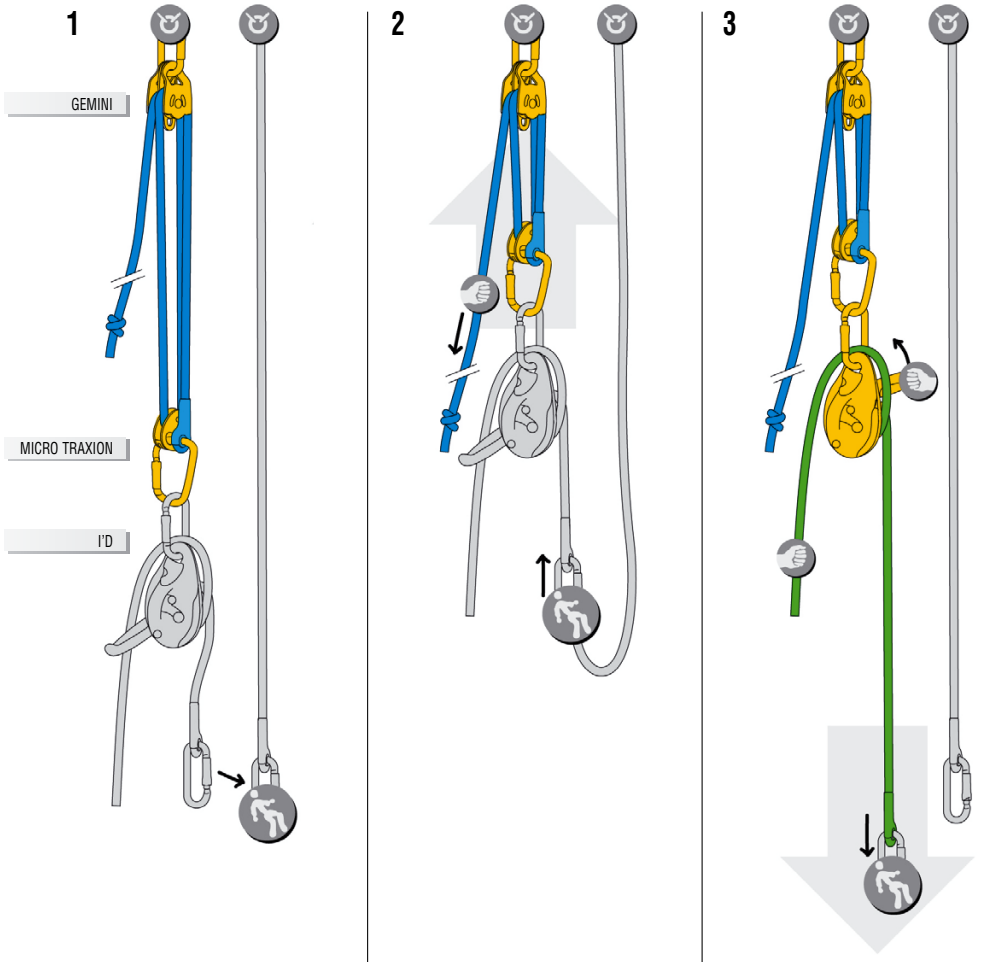


こちらに掲載した内容はすべてを網羅するものではありません。他の須や取扱説明書、テクニカルマニュアルも参照ください。技術的なトレーニングも必ず行ってください。

引き上げ/下降の切り替えが可能なホーリングシステム

救助者が付き添わないレスキュー（途中に障害物がなく、要救助者の容態も安定している場合）

1.レスキューキットを要救助者に連結します
2.プーリーシステムを使用して要救助者を一時的に引き上げ、要救助者のロープを解除します
3.安全な場所まで下ろします



救助者が付き添うレスキュー（下降ルートにある障害物から要救助者を保護します）

1.レスキューキットを要救助者に連結します
2.プーリーシステムを使用して要救助者を一時的に引き上げ、要救助者のロープを解除します
3.安全な場所まで下ろします